

# けさも<sup>おが</sup>拝んだ

## ■ 楽曲データ

歌詞：山県門人 作詞

楽曲：深井史郎 作曲

発表：大谷楽苑

初演：—

初出：『讃仰歌』 大谷楽苑 1960年

管理番号：M1878

## ■ 創作の経緯

大谷楽苑による「讃仰歌」第22番として発表。

## ■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第4巻収録

底資料：『讃仰歌』 大谷楽苑 1960年

比較資料：—

校訂の詳細：特になし

## ■ 解説

毎朝同じようにお参りしていても、仏さまの顔は、私たちの心を映すかのよう  
に、時々で変わって見えるもの。《けさも拝んだ》は、とある朝のお参りを、  
優しいタッチで描いた仏教讃歌です。

この作品は、昭和35（1960）年、大谷楽苑（真宗大谷派第24代門首である大  
谷光暢・智子夫妻によって設立された、仏教音楽の創作と普及のための演奏団  
体）から刊行された楽譜集『讃仰歌』において発表されました。

作詞者・山県門人の経歴は不明です。作曲者の深井史郎（1907～1959）は、  
戦前よりクラシック音楽の作曲家として活躍する傍ら、溝口健二監督『残菊物  
語』や松田定次監督『八つ墓村』など、映画音楽も多く手掛けました。

## ◆ 楽曲について

歌詞は、子どもがお話しているような、やわらかい言葉づかいで書かれていま  
す。1番から3番にかけて、御堂の全体→内陣→仏さま、と視線を移していく  
ことで、お御堂の空間が巧みに表現されています。どの節も「ほんに」と締め  
くくられますが、これは誰の言葉でしょうか？ 子ども自身か、その子を見守  
る両親か、あるいは——。解釈によって、歌い方は変わっていくでしょう。  
皆さんで話し合いながら自分たちなりの歌を作り上げるのも、合唱の醍醐味で

す。

#### ◆演奏のヒント

言葉の切れ目や高低アクセントに合わせたメロディとなっていますので、日本語のリズムを味わいながら歌ってみましょう。ただし、2番の冒頭「ちろちろ」のように、歌詞と音楽のフレーズが一致していない部分もあります。このような箇所では逆に、音楽に引っ張られないよう、意識して歌ってみてください。

#### ◆楽譜について

『聖歌・讃歌集』第4巻（本願寺出版社刊）には、混声四部の楽譜を記載しています。伴奏譜と合わせ、ご参照ください。

解説執筆：田村菜々子（浄土真宗本願寺派総合研究所研究助手）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第228号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.